

第148回 地区内中小企業景気動向調査結果

(令和7年10～12月期実績・令和8年1～3月期見通し)

1. 調査時点 令和7年12月1日～12月5日
2. 調査対象企業数 159社中回答158社 回答率99.4%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	従業員300人以上	1	1	100.0
〃	従業員300人以下	32	32	100.0
建設業	従業員300人以下	2	2	100.0
〃	従業員50人以下	36	36	100.0
卸売業	従業員50人以下	9	9	100.0
小売業	従業員50人以下	50	50	100.0
サービス業	従業員300人以下	1	1	100.0
〃	従業員50人以下	28	27	96.4
合計		159	158	99.4

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・DI値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（TEL. 0146-22-4100、内線855）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 158 企業 (回答率 99.4%) の調査結果です

□ 概 況

今期(令和7年10～12月期)の業況判断D. I. は0.6と、前期(△8.8、令和7年7～9月期)比9.4ポイント上昇した。前年(△12.3)比では12.9ポイント上昇した。前期(令和7年7～9月期)調査時点での今期(令和7年10～12月期)見通し(△6.9)を7.5ポイント上回る水準となった。業種別の業況判断D. I. は、製造業12.1(前期△30.3)、建設業13.2(同5.3)、卸売業0.0(同55.6)、小売業△12.0(同△7.8)、サービス業△7.1(同△24.1)となった。

売上額判断D. I. は7.0と、前期(8.8)比1.8ポイント下降、収益判断D. I. は△0.6と、前期(1.3)比1.9ポイント下降した。

来期(令和8年1～3月期)の予想業況判断D. I. は△25.3と、今期実績比25.9ポイントの下降見通しとなった。業種別にみると、製造業△33.3(今期12.1)、建設業△15.8(同13.2)、卸売業△22.2(同0.0)、小売業△34.0(同△12.0)、サービス業△14.3(同△7.1)と来期を見通している。

【業種別天気図】

時 期 業 種	地 区 内				北 海 道	全 国
	2025 年 4月～6月	2025 年 7月～9月	2025 年 10月～12月	2026 年 1月～3月 見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						

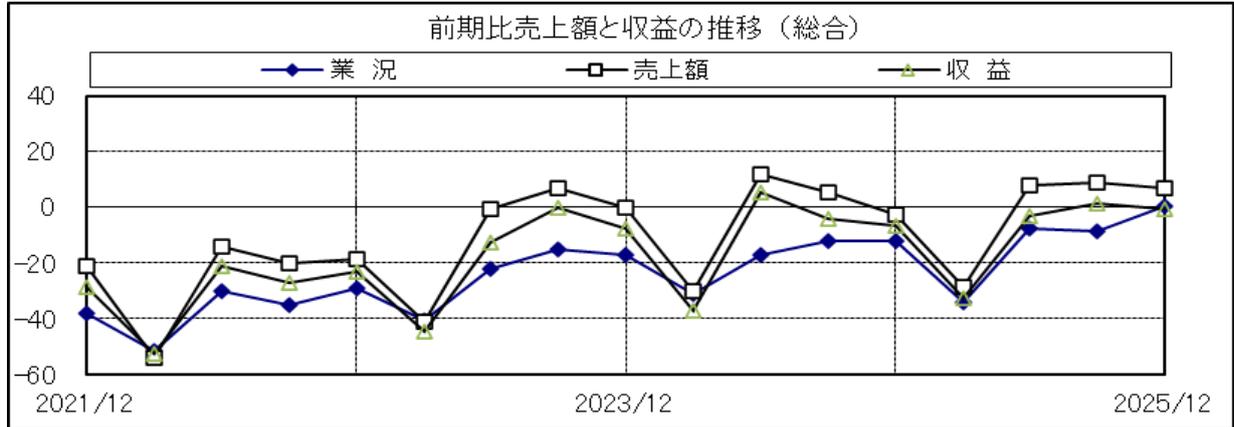
好調 ← → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
業 況	-7.4	-8.8	0.6	-25.3
売上額	8.0	8.8	7.0	-25.9
収 益	-3.1	1.3	-0.6	-27.8

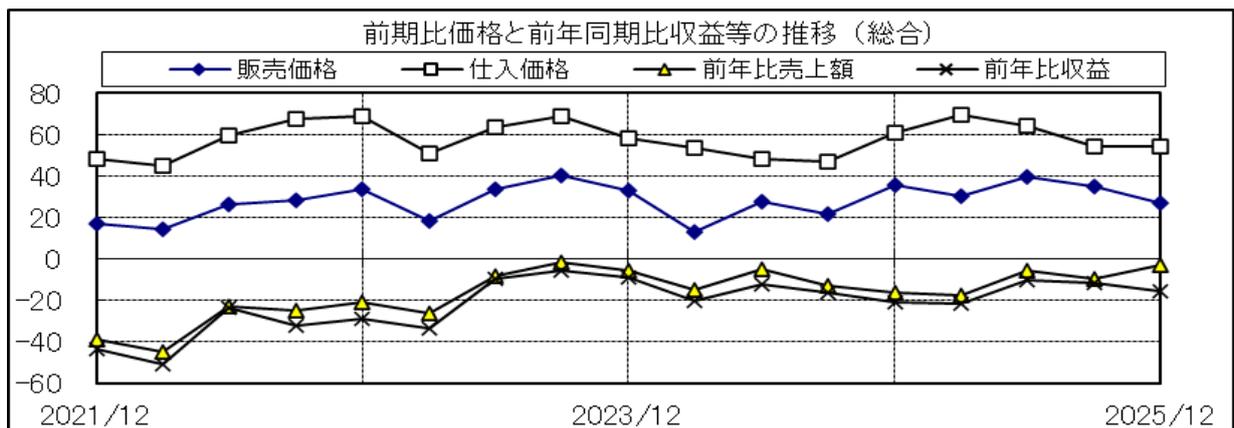
全業種総合の今期の業況判断D. I. は0.6で、前期比9.4ポイントの上昇、前年(△12.3)比では12.9ポイント上昇した。地区別のD. I. は、高い順に、えりもが最も高く、次に静内、同率で三石・様似、浦河と続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断D. I. は7.0で、前期比1.8ポイント下降。収益判断D. I. は△0.6で、同1.9ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
販売価格	39.9	35.0	27.2	10.8
仕入価格	64.4	54.4	54.4	38.6

販売価格判断D. I. は27.2で、前期比7.8ポイント下降、前年(35.6)比で8.4ポイント下降した。仕入価格判断D. I. は54.4で、前期と同水準、前年(60.8)比で6.4ポイント下降した。業種別の前期比を見ると、販売価格は製造業が上昇、他の業種は下降した。仕入価格は、製造業、建設業が上昇、他の業種は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
残業時間	-1.2	-0.6	0.6	-10.1
人手状況	-30.1	-34.4	-34.8	-29.1

残業時間判断D. I. は0.6と、前期比1.2ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断D. I. は△34.8と、前期比0.4ポイント下降し、人手不足感は若干強まった。

□ 設備投資の動き

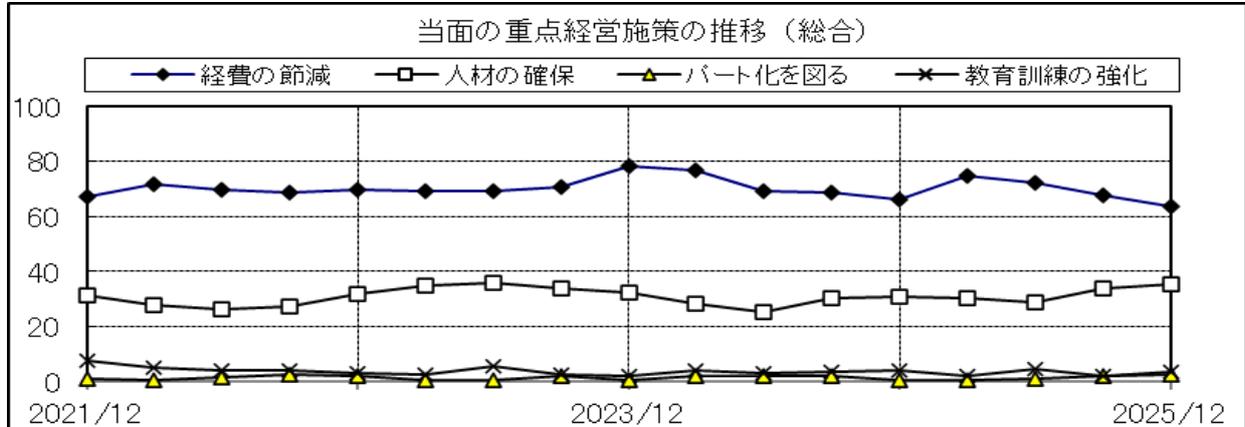
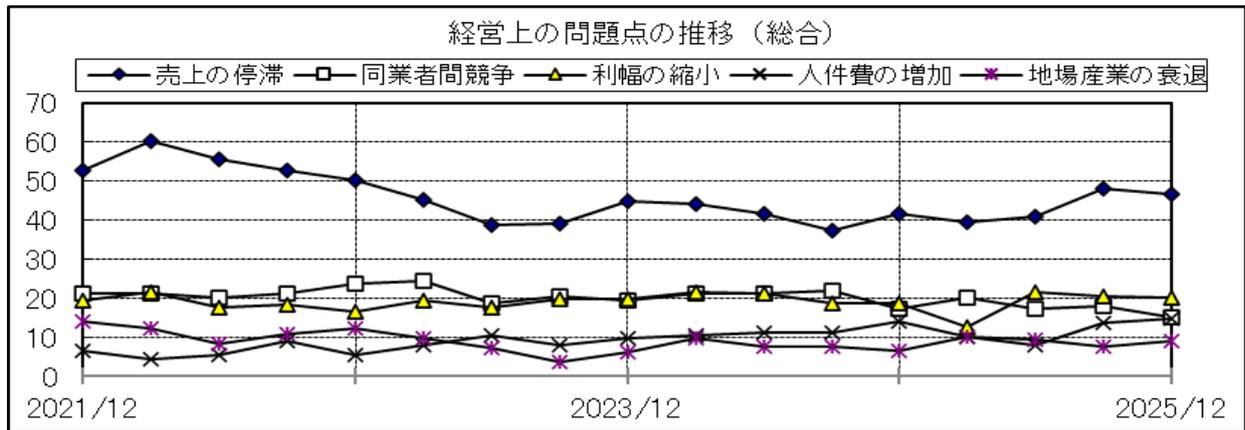
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 14.6$ で、前期($\Delta 15.0$)比0.4ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は20.3で、前期(16.9)比3.4ポイント上昇した。設備投資は、前期27社に対し、32社の実施となった。来期の設備投資は、18社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が46.8%で最も多く、次に「人手不足」31.6%、「利幅縮小」20.3%、「同業者競争」15.2%、「人件費増加」14.6%、「地場産業衰退」8.9%、「諸経費増加」5.1%、「天候不順」3.2%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が63.9%で最も多く、次に「人材確保」35.4%、「教育訓練強化」3.8%、「パート化」2.5%、「不動産有効活用」1.9%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 25.3$ と、今期比25.9ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 25.9$ と、今期比32.9ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 27.8$ と、今期比27.2ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は10.8と、今期比16.4ポイントの下降を見通している。

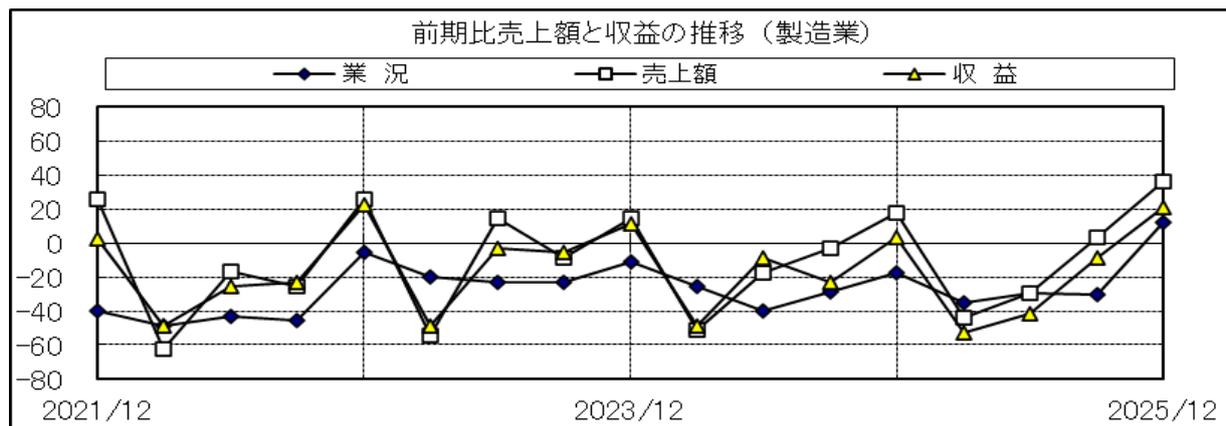
予想仕入価格判断D. I. は38.6と、今期比15.8ポイントの下降を見通している。

製造業 33企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
業 況	-29.4	-30.3	12.1	-33.3
売上額	-29.4	3.0	36.4	-36.4
収 益	-41.2	-9.1	21.2	-33.3

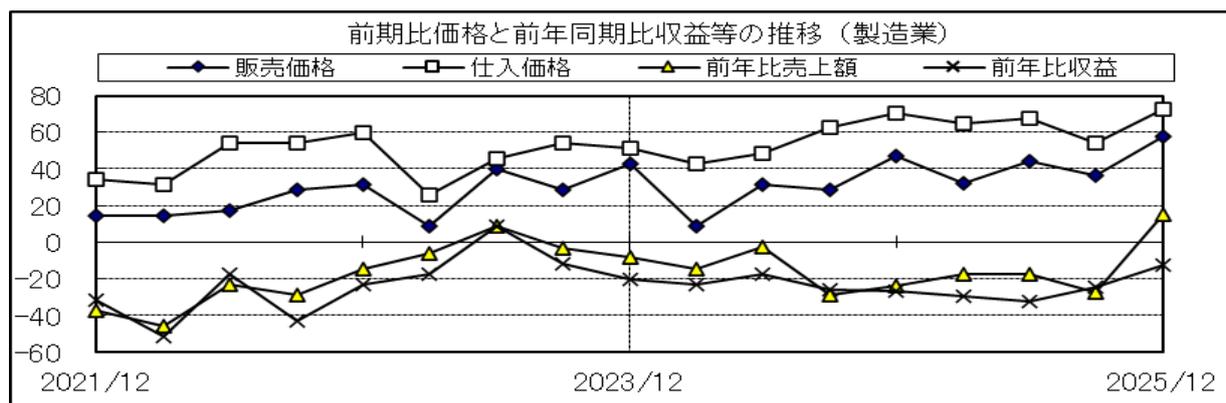
今期の業況判断 D. I. は 12.1 で、前期比 42.4 ポイント上昇、前年(△17.7)比で 29.8 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、様似が最も高く、次に浦河、同率で静内・えりも、三石と続き広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は 36.4 で、前期比 33.4 ポイント上昇。収益判断 D. I. は 21.2 で、前期比 30.3 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
販売価格	44.1	36.4	57.6	12.1
仕入価格	67.6	54.5	72.7	39.4

販売価格判断 D. I. は 57.6 で、前期比 21.2 ポイント上昇。前年(47.1)比では 10.5 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 72.7 で、前期比 18.2 ポイント上昇、前年(70.6)比 2.1 ポイント上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
残業時間	-2.9	-3.0	15.2	-12.1
人手状況	-44.1	-42.4	-42.4	-30.3

残業時間判断 D. I. は 15.2 で、前期比 18.2 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△42.4 で、前期と同水準となり、人手不足感に変動はなかった。

□ 設備投資の動き

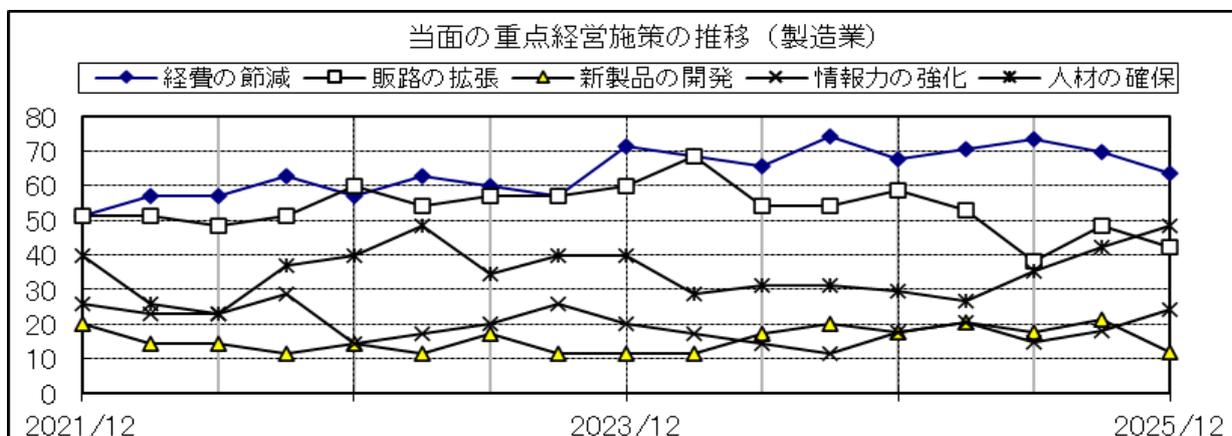
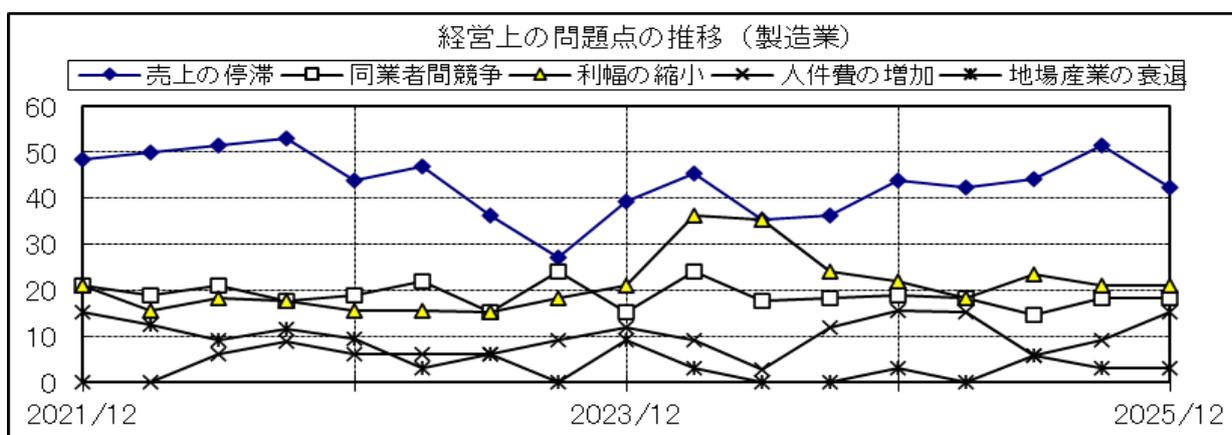
設備投資の充足感を示すD. I. は△15.2で、前期(△24.2)比9.0ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は30.3で、前期(21.2)比9.1ポイント上昇した。設備投資は、前期7社に対し10社の実施となった。来期の設備投資は、7社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」が60.6%と最も多く、次に、「人手不足」が48.5%、「売上停滞減少」42.4%、「利幅縮小」21.2%、「同業者競合」18.2%、「人件費増加」15.2%、「工場機械老朽化」12.1%、「大手企業競合」・「生産能力不足」が9.1%、「値上要請」・「諸経費増加」が6.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が63.6%と最も多く、次に「人材確保」が48.5%、「販路拡大」42.4%、「情報力強化」24.2%、「新製品開発」12.1%、「不採算部門縮小」・「機械化促進」・「パート化」・「教育訓練強化」6.1%、「提携先確保」・「工場増設移転」が3.0%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△33.3と、今期比45.4ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は△36.4と、今期比72.8ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は△33.3と、今期比54.5ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は12.1と、今期比45.5ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は39.4と、今期比33.3ポイントの下降を見通している。